

OFFICE OF RYUE NISHIZAWA SHISHI-IWA HOUSE NO.3, Nagano, 2019

# 自然を感じる縁側と回廊の構成

ししいわハウス No.3

長野県北佐久郡軽井沢町

西沢立衛 建築設計事務所

撮影: 猪花菜

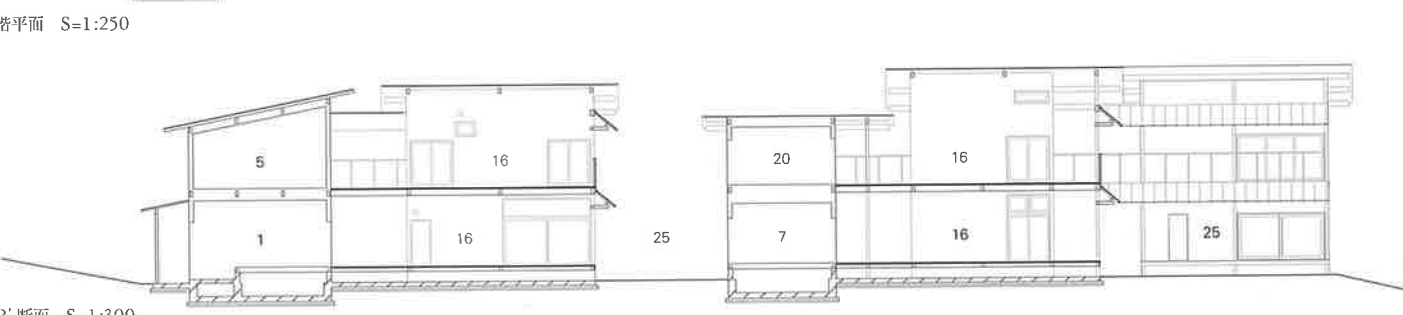
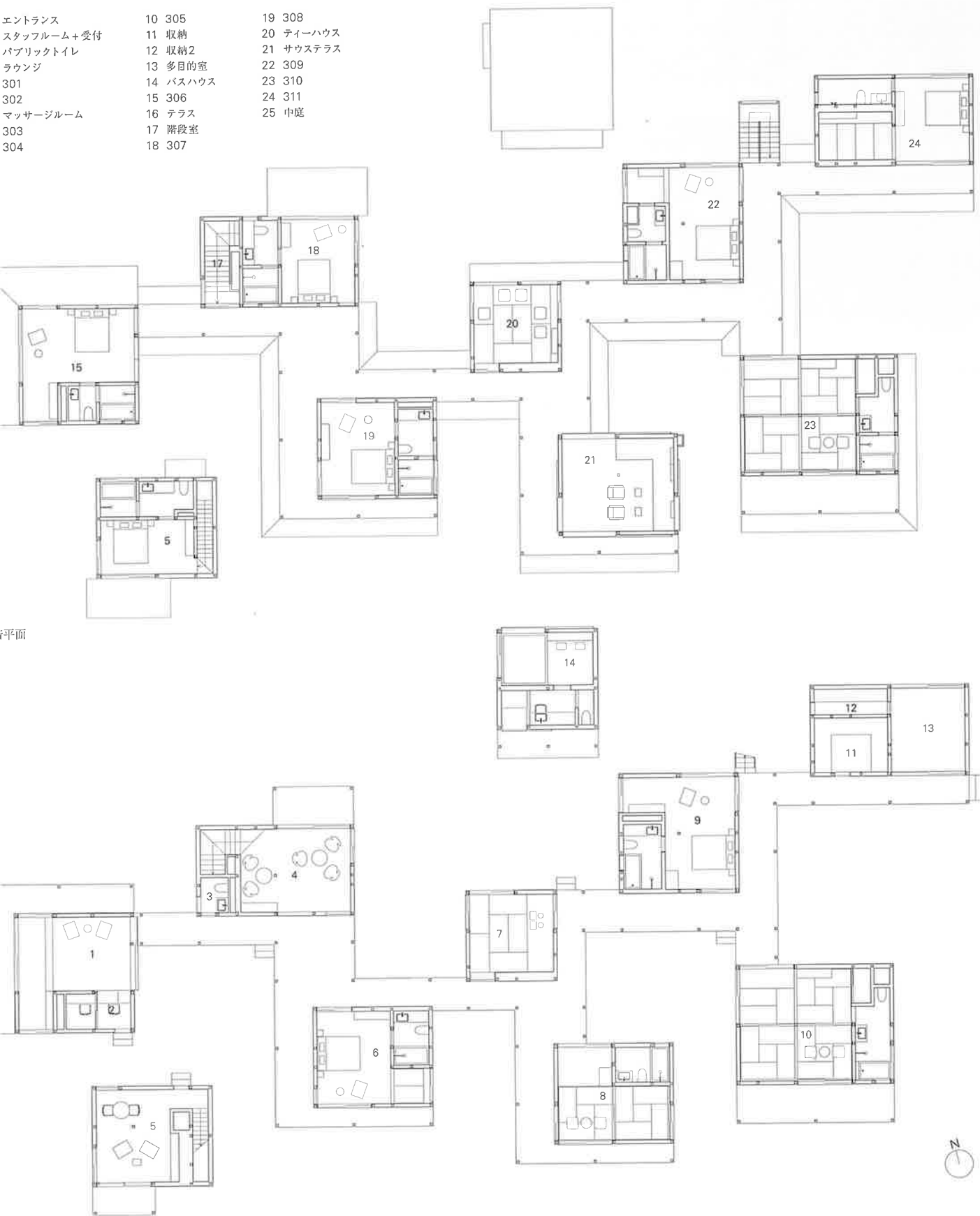


S=1:3000



側より見る。背後には軽井沢野島の森などが広がる

- エントランス 10 305
- スタッフルーム+受付 11 308
- パブリックトイレ 12 取納2
- ラウンジ 13 多目的室
- 301 14 バスハウス
- 302 15 306
- マッサージルーム 16 テラス
- 303 17 階段室
- 304 18 307
- 19 308
- 20 ティーハウス
- 21 サウステラス
- 22 309
- 23 310
- 24 311
- 25 中庭



南より見る

## 日本的な部屋と外部の構成

西沢立衛

軽井沢の自然の中に計画されたホテルで、二〇〇〇平米強の敷地に、十一の客室と共有のリビング、ラウンジ、ティールームがあります。クライアントから求められていたのは、それぞれ三〇平米前後の客室と共有のリビングがあるもので、木造で日本的な空間をつくって欲しいとも言われていました。最初にほくのプティックホテルに対するイメージからすると部屋が小さく感じました。そのことは最初から最後まで、スタディの大きなテーマのひとつになったと思います。

小さい部屋ながら快適な空間をつくりたいということで、ラウンジや半屋外リビング、茶室などの様々な共有スペースを部屋の外につくりたいと考えました。また、小さい部屋がずらりと中廊下に面して並ぶビジネスホテルの平面は良くないと思い、離れのようにな分棟にしました。リビングなども含めた九棟の二階建てと一棟の平屋建てのパヴィリオンの構成を考へて、移動空間であり滞在空間でもある回廊(あるいは縁側、ロジック)で結ぶ。ホテルに滞在すると、建物内を移動しても外に出ないということがよくあるけど、ここでは回廊は半外部空間で、軽井沢の自然を感じることができると考えました。それは、全体の面積を法定的な条件に納める上でも効果的です。

分棟にしたことは、日本的な空間、特に和室を考えたことも大きいですが、部屋を界壁で仕切り、手前は通路に接し、奥で外に開く。そこに畳を敷いたりすると、とてもイヤな空間になるといってもいいかもしれません。やはり、XY幾つかの方向に抜けないといけない。分棟にすれば、抜けを四方方向でつくることのできるわけです。

その時に思い出されたのは、吉阪隆正がコルビュジエのユニテ・ダビタシオンを初めて訪れた時の文章です。彼は拒否反応を示して、全部パドックみたいにならないう方向を向いていて、日本人はそういうものに慣れていないと書いています。ほくも読んだ時は特に気に留めていなかったけど、実際に自分がこういう部屋が並ぶものを設計してみても、日本的空間という正確に、XY方向に抜ける透明感があるなと思いました。

分棟にして複数の庭をつくりたい時に、以前から関心のあった雁行配置を試みました。つまり、真つ直ぐ見通せるものでない形で、進むにつれて空間が開いていく。それを幾つかの庭、共有スペースを経由するようにつくっています。

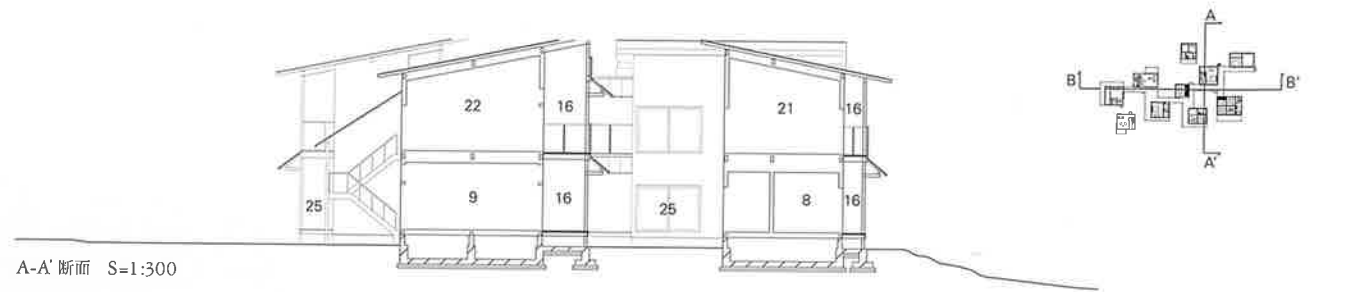
また、分棟ということから木造であることも考えていきました。印象に残っていることで、構造をお願いした佐々木睦朗さんに途中で言われたことがあります。分棟の構成がただの箱の集合になるのでなく、回廊に屋根を掛け下屋をつくりたいというわけですが、片流れで軒を持ち出すと、柱の高さが七割くらいになった。集材などでつくっていくことはできるけれど、今回考えている木造の寸法とは違うものになってしまう。それで回廊空間も二層にし、その分節を考えていきました。

木造にしたので、その耐久性や長寿命化には特に注意を払っています。ひとつは雨仕舞いで、石造建築のように水がかかるわけにいかないから軒を出して直接の降り込みを避ける。今回の設計にあたり様々な建築を見て回ったのですが、吉村順三が軽井沢に設計した幾つかの別荘建築を見ると、ちゃんと二階以上出ている感じでした。

また、下屋をやるからには、骨組みを見せたいわけです。それで天井は張らないし、梁の先端もなるべくオープンにする。また、二階の縁側の床をスノコ状にしたことも、光の問題もありますが、通風性が良く湿度の溜まらない長寿命な構造体を意図したためです。空間的な意味だけでなく、空気の流れをつくるという意味でも透明感のある構造体を目指していました。

かつて、岸田日出刀が六畳間をつくるのに十二畳必要だと書いています。最初、どういふことかと思っただけで、木造や日本的な空間を考えると、構造体の腐食を防ぐ雨仕舞いや履き物を脱ぐ場所のように、内外をスパッと切り分けることができず、やらなくてはならないことがあるというあるわけです。その意味からも、縁側はつくりたかったし、庭と一体となった回廊もやってみたかった。雨戸もつくりたかったけど、湿気の多い軽井沢では戻ってしまふということ、今回は見送りしました。日本的な空間が持っている、木造建築の柔らかさと厳しさ、中と外のつながりなど、あらためて考えることが多いプロジェクトでした。

(文責/木誌/山口奥)





見る



1. エントランスへのアプローチ



南立面



西立面 S=1:300



庭を囲む分棟の構成が回廊でつながる。正面はエントランス



軒下からエントランスを見る



エントランスよりアプローチを見返す



エントランス



の庭。東を見る



ラウンジを南より見る△



のある客室。302

マラウンジ前より東を見る





東側の囲まれた庭。西を見る



東北側の森に向かって伸びたウイング。南より見る



302の前の廊下。スノコ状の床は光と風が抜ける



回廊と下屋の構成



雁行する回廊



西側の306



南東側, 305. 田の字平面の和室



離れ形式の301



301はメゾネット形式



307から回廊を見る



1階, ラウンジ



2階, ティーハウス



309の小上がり



2階の回廊より南東側の庭を見る。夕景



2階、西側の回廊。西を見る

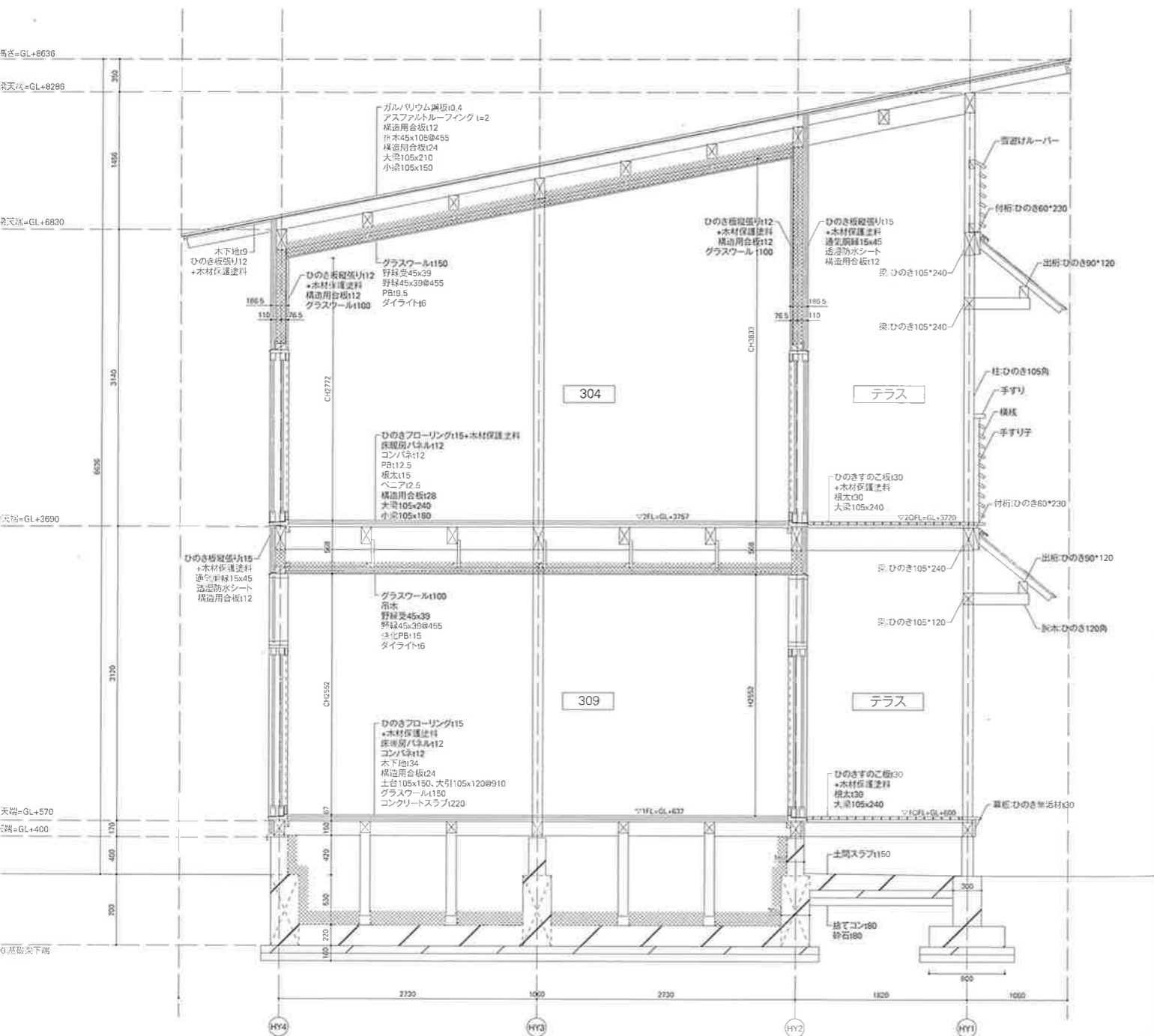


2階、東側の回廊。南を見る



下層は低く下がっているところもあり、ゆるやかに領域を分ける





前詳細 S=1:60



北側、バスハウス前の庭



隠れのバスハウス



2階、サウステラス

名称：しいわハウス No.3  
 所在地：長野県北佐久郡桂井沢町長倉 2147-40  
 建築主：HDHP 合同会社  
 用途：ホテル  
 設計・監理（\*元所負）  
 建築：西沢立衛建築設計事務所 担当/西沢立衛、  
 金丸真由美、植田有紗、植松里緒、東出優子、  
 館真弘\*  
 構造：佐々木睦朗構造計画研究所 担当/佐々木睦朗、  
 永井佑季、尾本信幸\*  
 設備：環境エンジニアリング 担当/高山浩、平井孝典  
 ランドスケープ：GA ヤマザキ 担当/山崎誠子（日本大学）、  
 針谷未花  
 照明：遠藤照明 担当/水野将明

監理：西沢立衛建築設計事務所 担当/西沢立衛、  
 金丸真由美、植田有紗、植松里緒、東出優子  
 施工  
 建築：神福建設 担当/片桐健一  
 設備：金澤工業 担当/秋久保峰明  
 電気：林友電気通信工事 担当/上藤誠  
 規模  
 敷地面積：2,105.99m<sup>2</sup>  
 建築面積：462.21m<sup>2</sup>  
 延床面積：626.90m<sup>2</sup>  
 建蔽率：21.94%（計容 65.77%）  
 容積率：65.77%（計容 200%）  
 各床面積：1F / 328.23m<sup>2</sup>、2F / 298.67m<sup>2</sup>  
 階数：地上 2 階

階高：3.12m  
 天井高：2.6m ~  
 最高軒高：8.286m  
 最高高さ：8.665m  
 駐車台数：6 台  
 期間  
 設計期間：2019.04. - 20.12.  
 施工期間：2021.09. - 23.04.  
 敷地条件  
 地域地区：法 22 条区域、景観形成重点地域、浅間山  
 風景観成重点地域  
 道路幅員：西 6m、南 5m  
 構造  
 主体構造：木造一部鉄骨造

杭・基礎：布基礎  
 外部仕上げ  
 屋根：ガルバリウム鋼板 厚 0.4 種ハゼ葺き@ 455  
 外壁：杉板縦張り 厚 15 + 木材保護塗料  
 開口部：木製建具  
 回廊床：根太 厚 15 + ひのき板 厚 15  
 内部仕上げ  
 天井：ダイト 厚 6（不燃材料認定品）  
 壁：ひのき板縦張り 厚 12、石膏ボード 厚 15 + クロ  
 ス貼  
 床：ひのき板フローリング 厚 15、たたみ 厚 15